

「子どもたちと関わるボランティア活動に興味がある ワカモノのためのセミナー～入門編～」

- 1 趣 旨：ボランティア活動について理解を深めるとともに、ボランティア活動をするために必要な知識・技術を学ぶ。また、今後のボランティア活動についての意識を高め、青少年教育施設や地域社会等で活動できるボランティアを育成する。
- 2 日 時：平成30年6月16日（土）12：30～17日（日）16：30
- 3 場 所：国立淡路青少年交流の家
- 4 対 象：子どもたちと関わるボランティア活動に参加したい、もしくは興味のあるワカモノ 40名程度
- 5 参加者：49名
- 6 講 師：株式会社大塚製薬工場 川本安紀子 氏
- 7 プログラムの内容：



1日目

12：30～ 開講式・アイスブレイク

ボランティアスタッフによるアイスブレイクからセミナーが始まった。緊張の表情を浮かべながらも、積極的に関わろうとする参加者が多く、楽しい雰囲気です。1日目をスタートさせることができていた。

13：10～ アドベンチャーラリー

交流の家の課題解決型プログラムであるアドベンチャーラリーに挑戦してもらった。今回は交流の家職員の指導のもと、始めにキーパンチを実施した。最初は、初めて会うメンバーとうまくコミュニケーションが取れずに、苦戦する班が多かった。次に、ブラインドスクエアを実施した。難易度が上がったにも関わらず、解決できた班が2班あり、メンバーとの関わりを徐々に深めていくことができつつあった。最後に島渡りに挑戦。かなり緊張がほぐれ、いい雰囲気の中で取り組む班が増えてきた。

18：30～ 講義『青少年教育施設について』

午前中に行ったアドベンチャーラリーのおさらいをしつつ、活動プログラムとその意図について考えた。その中で、「青少年教育施設ってどんなところ？」や「今回のボラセミの目的は？」などを問いかけ、参加者に考えてもらった。参加者からは、「教育施設」や「仲を深めるため」など様々な意見が交わされた。意見をまとめ、活動内容以外にも教育のための様々な仕掛けが施設に施されていることを付け加えて解説し、青少年教育施設について理解を深めてもらった。



19:20～ 教育事業『活動紹介』

淡路の代表的な5つの教育事業「ジュニアチャレンジ淡路島一周」、「AWAJI未来探検隊」、「親子ちゃれんじ」、「自立支援キャンプ2018」、「うずしお交遊塾」について、実際に教育事業に携わった人達（運営ボランティア、参加者の中の法人ボランティア）に事業の紹介をしてもらった。それぞれの事業の魅力ややりがいについて生の声で熱く語ってもらったことで、多くの参加者が淡路の活動に興味を持ってくれたようである。また、今回の参加者の中には、小学生時代「ジュニアチャレンジ淡路島一周」に参加していた人が含まれていた。「当時のリーダーさんのことは今でも忘れられない。自分もリーダーとして関わってみたい」といった話も出るなど、前回のボラセミに続き、ボランティア活動が世代を越えて循環している状況が生まれている。

2日目

9:00～ 『安全管理講習』

安全管理講習ではボランティア活動に携わるにあたって重要な「リスクマネジメントについて」、「熱中症予防について」、「救命救急講習」の3つの内容を、講義や実技によって学んでもらった。

熱中症予防については、大塚製薬工場から講師として川本氏を招いた。水分補給のメカニズムや、子どもが熱中症になった場合の対処法など、実践的な内容に参加者も「もっと色々教えてほしかった」、「実践的でよかった」などの声が上がっていた。

13:00～ 『ボランティアとは?』

「ボランティアとは?」というテーマで、大本所長の進行によるフリップディスカッション。「Youは何しにボラセミへ?」や「国立淡路に来る子どもたちのニーズは?」などを参加者に考えてもらった。参加者からの活発な意見交換が行われ、お互いに様々な刺激を感じていた。また、参加者自身のボランティアに対する気持ちや考え方にも影響を与えているようだった。最後に、淡ボラ卒業生の国立淡路での活躍をまとめた動画を全員で見た。セミナーの最後には、新たな仲間との別れを惜しむ姿が印象的であった。



8 参加者の声

- ・新しい発見や新しい自分に出会えた。これからもボランティア活動に積極的に取り組みたい。
- ・実践や体験が多くて、思っていたよりも有意義な時間を過ごすことができた。
- ・自分のやりたいと思えることを見つける機会になった。
- ・すべての活動が、優しく、和やかな雰囲気だったので、初参加でも十分楽しめた。
- ・グループワークを通して年代の違う方々と意見交換をすることができ、より気づきが深まった。

9 所感

- ・参加者の約半数が女子高生だったので、群れることが予想されていたが、予想とは反対に高校生の積極的な取り組みが見えた。
- ・大学生と高校生の壁があまりなく、世代間の交流がスムーズにできた。
- ・セミナーの満足度は高く、今後多くの参加者がボランティアとして、帰ってきてくれればと思う。
- ・参加者の中にいた法人ボランティアによる絶妙のフォローもあり、セミナー初参加の参加者も自然と馴染んでセミナーに取り組むことができた。
- ・交流の家でも中核を担っている運営ボランティアが、「安全管理講習」や「各講義」に参加したことで、運営ボランティア自身のスキルアップにもつなげられた。